

第 3 節

未来を担うひとづくり

- 1 学校教育の充実
- 2 青少年の健全育成
- 3 生涯学習・社会教育の充実
- 4 スポーツ・レクリエーション活動の推進
- 5 地域の文化の保存と継承
- 6 国内外での広域的な交流の推進
- 7 芸術文化活動の推進

1

学校教育の充実

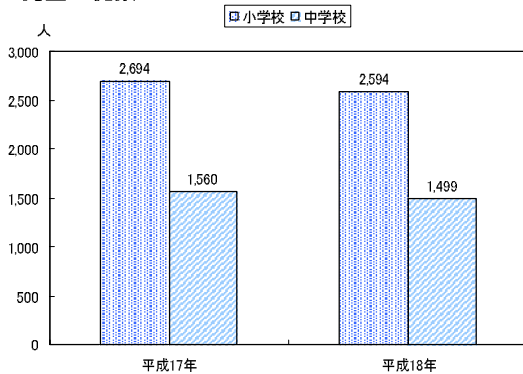
目標 指標

	平成 17 年度	平成 26 年度
複式学級解消	9 学級	2 学級
田村市学力調査（平均偏差）小学校	国語 52 算数 52	国語 55 算数 55
田村市学力調査（平均偏差）中学校	国語 51 数学 49 英語 49	国語 53 数学 52 英語 52

現況と課題

- 家庭の教育機能の低下は、核家族化や連帯感の希薄化など地域社会の環境変化がその要因といわれ、社会教育の充実や地域活動の促進により保護者の意識を高めるとともに、幼児教育に対する多様なニーズへの対応が求められています。
- 確かな学力と豊かな心、たくましい体力など、いわゆる「生きる力」を育むため、自ら学び、考え、的確に問題を解決する資質や能力を身につける教育が求められています。それには、学校施設の充実や学校の主体性と創意工夫を活かした教育の質の向上、国際理解・情報・環境教育など様々な体験・交流活動等を推進し、豊かな人間性と個性を育む必要があります。
- いじめや虐待、不登校、少年犯罪、子どもを狙う凶悪犯罪の増加など、子どもを取り巻く環境は大きく変化し、子どもの心の教育と安全性の確保が重要な課題になっています。また、ADHD^{*1}やLD^{*2}など学校生活に適應できない児童生徒が生き生きと学習できる環境づくりも望まれています。
- 平成 18 年度末現在、市内には小学校 25 校、中学校 8 校ありますが、老朽化のみならず少子化による小規模校化が進み、長期的な視点に立った老朽校舎の整備のあり方と教育効果の向上を図るための学校規模の適正化を検討する必要があります。
- 県立船引高等学校の教育環境の充実を支援するとともに、市外へ依存している特別支援教育の充実が求められています。

□ 児童生徒数



資料：学校教育課



芦沢小学校

目指す
べき
方向性

- 変化に対応した教育環境の充実
- 関係機関との連携による安全で安心のある学校づくり
- 家庭や地域・学校との連携の強化

施策の体系

① 学校規模・配置の適正化

- 複式学級の解消など望ましい教育環境を創造するため、学校規模の適正化と適正配置を推進するとともに老朽校舎の計画的な改築や給食施設の効率的な整備、通学手段の確保に努めます。また、学校統廃合による空き教室など施設の有効活用を検討します。
- 幼保一元化など本市の幼児教育全体のあり方を検討し、幼児、保護者の視点に立った施設整備に取り組みます。

② 教育環境の充実

- 情報化や国際化等の進展に即した教育内容・方法の充実に努めるとともに、教職員の技術や資質の向上など保護者の信頼に応える指導体制の充実に努めます。
- 心の教室相談員の配置と活用に努め、不登校や教室に入れない児童生徒、保護者の心のケアを支援します。
- ADHDやLDなど障害をもった児童生徒の特別支援教育の推進とその環境づくりに努めます。

③ 教育施設的环境整備

- 高度情報教育と環境教育を充実するため、情報機器や新エネルギー機器等の導入に努めます。
- 計画的な耐震診断や耐震改修など学校施設の安全対策を推進します。
- 不審者や変質者による被害の未然防止に向けた防犯対策を強化します。

④ 各種教育機関の誘致

- 県立船引高等学校の地域に根ざした特色ある学校づくりを支援するとともに、県立特別支援学校等の誘致を働きかけ、まちづくりを担う人材の育成に努めます。

⑤ 家庭・地域との連携

- 子育てに関する知識や技術を学ぶ機会の提供と保護者の意識啓発など、家庭教育機能の向上に努め、心身ともに健やかな子どもの育成を図ります。
- 世代間交流など地域ぐるみで子どもを見守り、育む環境づくりに努め、安心して学び・遊ぶことのできる多様な体験活動を促進します。

※1：ADHD

児童期に出現する注意力散漫と多動を特徴とする症候群。学習障害に通じる注意欠陥多動障害。

※2：LD

全般的な知能の水準や身体機能に障害は見られないが、読み書き・計算や注意の集中といった能力に欠けるために学習が困難な状態。

2

青少年の健全育成

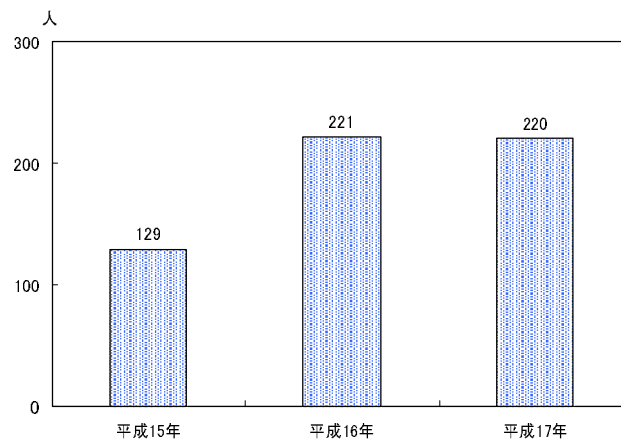
目標 指標

	平成 17 年度	平成 26 年度
ボランティア活動参加者数	5,199 人	6,000 人
児童館利用者数	40,447 人	42,000 人

現況と課題

- ・ 非行や引きこもり、児童虐待、就労の不安定とそれに起因する親への長期依存、有害環境など、青少年を取り巻く課題は広く、深刻さを増しています。
- ・ 平成 18 年 7 月に設立された田村市防犯協会を中心に、関係団体が一丸となって青少年の健全育成活動に取り組んでいるほか、子どもの安全を支える地域の自主的なボランティア活動が進められています。
- ・ 核家族化等の進行により、地域ぐるみの健全育成が求められています。また地域の伝統や文化、遊びの継承が困難になっているため、高齢者など身近な人材を活用した施策が望まれています。
- ・ 子どもの多様な交流・活動の場として利用されている児童館の老朽化等の改善に向けた計画的な整備が求められています。
- ・ 放課後児童の安全な交流・体験を見守る指導者やボランティアの育成と活動拠点の確保が望まれています。

□市内補導者数



資料:三春警察署、小野警察署

目指す
べき
方向性

- 子どもの健全育成を進めるための環境づくり
- 家庭・学校・地域が一体となった青少年の育成

施策の体系

① 青少年の健全育成体制の充実

- 民生・児童委員や児童相談会など青少年に関わる相談体制の充実に努めるとともに、田村市青少年健全育成市民会議による少年の主張やボランティア事業など青少年の健全育成に努めます。
- スポーツ少年団や子ども会など少年団体活動を促進し、心身ともに健全な子どもの育成を目指します。

② 青少年の健全育成活動の支援

- 家庭・学校・地域の連携を深め、子どもを健全に育てるための地域コミュニティ活動を支援します。
- ボランティア活動など青少年の社会参加活動の促進に努め、地域社会と関わる機会を創出します。
- 地域に残る大切な文化や民俗を地域ぐるみで次世代に伝承する取り組みを検討します。

③ 活動拠点の充実

- 三世代交流館（児童館）など青少年の活動や世代間の多様な交流の拠点づくりを進めます。
- 空き教室を利用した放課後子ども教室や放課後児童健全育成事業の充実など、安全・安心な居場所づくりを進めます。

④ 子どもを育む地域環境づくり

- 見守り隊など市民による地域一丸となった活動を支援します。
- 子ども会やボランティア活動のリーダー養成を図ります。
- 心豊かな青少年を育むための花いっぱい運動や河川・道路の清掃など、市青少年健全育成市民会議の支部活動の充実に努めます。



菅谷めだかの学校

3

生涯学習・社会教育の充実

目標 指標

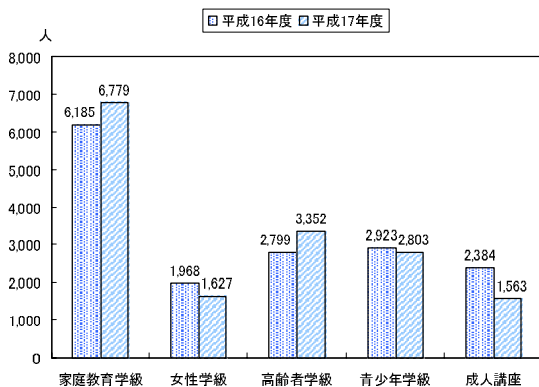
	平成 17 年度	平成 26 年度
生涯学習講座数	39 講座	35 講座
生涯学習参加者数	16,124 人	17,000 人

(講座数については、各公民館事業の集約をするため)

現況と課題

- 余暇時間の増大やライフスタイルの多様化等により、生涯学習に対する関心が高まっています。これまで旧町村が実施してきた各種講座を継続していますが、市民のニーズなど地域性に即した学習内容の拡充と講座等の一体化を全市的に検討する必要があります。
- 生涯学習の拠点となる公民館は5館ありますが、施設の老朽化やバリアフリー、利用者数の減少など様々な課題を抱えており、利便性と機能を高める取り組みが求められています。
- 地域ごとに図書館が整備されていますが、老朽施設の耐震性と利便性の向上が求められています。
- 図書館の蔵書は全体で約 12 万冊ありますが、既存施設の収納スペースが限られているため、市民ニーズを反映した蔵書の拡充が望まれています。

生涯学習講座受講者数



資料：生涯学習課



成人講座（陶芸教室）

目指す
べき
方向性

- 「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる環境づくり
- 生涯学習推進体制の充実
- ニーズに応じた学習機会の充実

施策の体系

① 生涯学習の充実

- 市民の学習意欲に対応した「いつでも、どこでも、だれでも」生涯にわたって様々な学習を行い、交流できるよう、その機会の拡充に努めます。
- 生涯学習講座の統一を図るとともに、地域のニーズ等に応じた特色ある講座の充実に努めます。
- 市民ボランティアとの連携による生涯学習指導体制の充実を図ります。

② 公民館の機能充実

- 生涯学習講座の充実や市民・団体の主体的な学習活動など、公民館の利用促進に努めます。
- エレベーターの設置や段差の解消、耐震性の強化など、安全で利用しやすい施設づくりを検討します。

③ 利用しやすい図書館づくり

- 市民ニーズに対応した蔵書の充実をはじめ市内図書館や県立図書館とのネットワーク化、バリアフリー化など、利用しやすい図書館を目指します。
- ボランティアによる絵本の読み聞かせなど、幼年期から本に親しむ社会教育の拠点としての利活用を進めます。



図書館

4

スポーツ・レクリエーション活動の推進

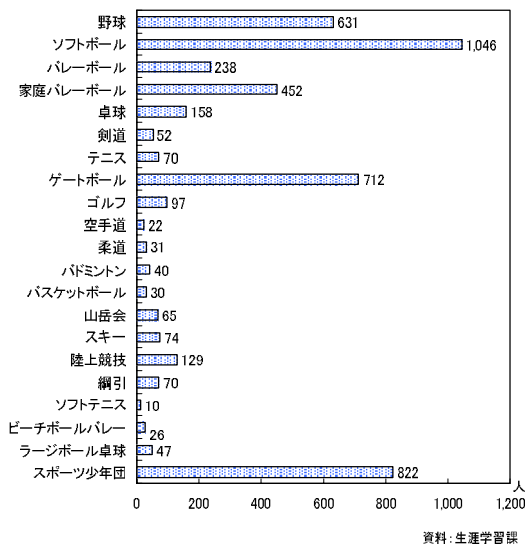
目標 指標

	平成 17 年度	平成 26 年度
総合型地域スポーツクラブ数	2 団体	5 団体
指導者数	347 人	430 人

現況と課題

- ・ 高齢化の進行や余暇時間の増加、ニーズの多様化等に伴い、市民の健康づくりに対する関心はいっそう高まりを示し、スポーツ・レクリエーションの果たす役割は大きくなっています。
- ・ これまで、身近なスポーツ活動は、主にスポーツ少年団や体育協会が担ってきましたが、平成 16 年度に総合型地域スポーツクラブが組織され、子どもから高齢者まで気軽にスポーツに親しむ土壌ができつつあります。
- ・ 市民が気軽にスポーツに親しむ場は整備されましたが、市全体のスポーツレベルや競技力向上を目指す広域的な公式競技大会を開催できる施設の充実が求められています。
- ・ 現在 54 名の体育指導委員がいますが、ニーズに応じた指導者の育成、指導体制・組織の見直しが求められています。

□ スポーツ団体参加者数



健康づくり教室

目指す
べき
方向性

- 幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーションの推進
- スポーツ・レクリエーションを通じた交流の促進
- 活動を支える充実した指導体制の確立

施策の体系

① スポーツ・レクリエーション活動の推進

- スポーツ少年団など既存スポーツ団体の活性化に努めます。
- 総合型地域スポーツクラブの設立促進とスポーツによる健康づくりの情報提供に取り組みます。
- 子どもから高齢者まで市民が気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションの機会を充実するとともに、ニュースポーツ※¹などニーズに応じた技術指導と情報提供に努めます。

② スポーツ・レクリエーション施設の充実

- 陸上競技場に引き続き、ソフトボール等が可能な多目的広場、テニスコート、体育館、プールなど、公式競技が可能な田村市運動公園の計画的な整備を進めます。
- 老朽化の進む市民プールやテニスコート等の計画的な改修に努めます。

③ 指導体制の充実

- 体育協会などスポーツ・レクリエーションを推進する関係団体の組織化と活動の強化に努めます。
- 体育指導委員やスポーツ少年団指導者を対象とした研修会など指導者の育成と指導体制の充実を図ります。



陸上競技場

※1：ニュースポーツ

柔軟性のある競技規則と適度な運動量を備え、特別なトレーニングをしなくても老若男女のハンディが少なく、簡易な用具でプレイを楽しめるスポーツのこと。